

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4191400011		
法人名	社会福祉法人天寿会		
事業所名	グループホーム つばき		
所在地	佐賀県東松浦郡玄海町大字平尾380-8		
自己評価作成日	平成24年1月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigojohou-saga.jp/kaigosip/Top.do
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成24年2月1日	外部評価確定日	平成24年2月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1、利用者様に安全で安心な生活環境を提供することを目指しヒヤリハットを多く出すように目標を定めたり、月に1回のグループホーム会議では、各個人のリスクを話し合うことで情報の共有とリスク回避に繋がり開所より現在まで骨折事故は起こっていません。</p> <p>2、職員のレベルアップを図る為に併設されている施設での研修会に月に1度参加したり、外部研修に1年のうち1人1回は参加しています。又、グループホームでの取り組みの実績を法人内での研究発表や外部での研修会にて発表しています。</p> <p>3、ほぼ毎月の家族会と2ヶ月に1度の運営推進会議を行い、地域やご家族との交流を深めると共に開かれたホームを目指しています。行事でも、家族様代表1名と行事の世話人3人が中心となり準備や片付けまで職員と協力して行っています。家族会の参加率もよく、だいたい6家族程度が参加されています。庭にはご家族様の意見で作った手づくりの畑があり、土をいじったり季節の野菜を食べたり四季を五感で感じることができます。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>玄海町の北部、静かで自然豊かな小高い丘に特別養護老人ホームと隣接して建つグループホームである。近くに民家は無いが隣接事業所の利用者や訪問者など地元住民と触れ合う機会が多い。隣接事業所とは、毎週健康運動指導士による筋力アップ体操に参加したり、祭りや行事・ボランティア訪問・日々のケアを通して協力関係が築かれている。また、防災対策や夜勤のフォロー体制など安全に対する法人内での協力体制が整っており、利用者本人や家族・職員の安心につながっている。入居者家族と情報の共有が大切と考え、職員は家族との連携を大切にしている。職員は入居者の希望に沿った外出支援を心がけ、面会や行事に参加される家族も多く、家族会活動も活発である。</p>
--

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人内で「EKAO」(笑顔・気配り・安全・おもてなしの心)という理念を基に、グループホームでの目標を定め各個人に配布しています。又、その理念や目標は職員に配布してノートに書くように実践に繋げています。	法人理念を基に入居者本人の意見を大切にしながら日々の生活を支えるという事業所理念「癒しの空間でのんびり楽しく自分らしく」を作り上げている。毎月の会議で理念に沿ったケアの確認を行っている。職員は入居者に接する態度や声かけ等、日々の業務を通して理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りや運動会に地域の方も声かけし、一緒に楽しんで頂けるようにしている。町での文化祭や外部からの慰問を受け入れし地域との交流に繋げている。	隣接事業所との合同夏祭りには多くの地域住民の参加があり、盛大に開催されている。地域との交流は併設の事業所を通して行われているが、地域住民とは顔馴染みの関係もできつつある事から、今後はホーム独自で地区の行事に参加できるよう検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭りや運動会を地域の人に案内し参加して頂く中で理解や協力を得られるように心がけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回行っておりグループホームの取り組みや問題を報告しアドバイスを頂いたり、家族や地域としてやって欲しい事等を聞き取り組んでいる。	運営推進会議は民生委員や行政職員、入居者家族・町会議員などの参加で開催されている。会議では入居者の状況や活動内容の報告、双方向の情報交換や活発な意見交換がなされている。行政の対応や医療問題など現状に即した説明があり、入居者本位のサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議メンバーに市町村担当者が入っておられ、ご利用者へのケアサービス等の取り組みについて伝えているので協力関係は築けている。	経営母体の法人が行政との窓口になっており、運営推進会議の参加を通して町の担当者や直接情報交換ができています。併設事業所を通じた町の介護教室などで行政との関係づくりもできています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は、職員がボタンを押さないと開かないようになっているが、ベランダから庭へは自由に入ったり、外出の機会を設けて閉塞感がないように取り組んでいる。	身体拘束検討委員会があり、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。職員は身体拘束に関する研修に参加し、精神的、言葉による苦痛の無い支援を心がけている。入居者は自由に行動でき、職員は見守りながら支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	研修で高齢者虐待についての勉強会は行っており、虐待が見過ごされる事がないよう事業者内では注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内の研修として成年後見制度や日常生活自立支援事業を学ぶ機会が少なく個々の必要性等を話合ったり、活用するまでは至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結については、十分な説明を行いその都度ご家族の不安や疑問を尋ね納得して頂くよう努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に、ご意見箱は設置しているが投函された事はなく、定期的に行っている家族会や面会時に意見や要望を聞き運営に反映している。	職員は家族や入居者と話す事を心がけ、意見や要望の把握に努めている。重要事項説明書に苦情申立先を明記し、家族に説明している。玄関には意見箱を設置している。日常の暮らしの中で感じ取った意見や要望は申し送りノートに記載し、職員間で情報を共有すると共に検討し、ケアプランに反映させるなど運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回会議を行い職員の疑問や悩み、又提案を出し合い運営に反映している。	毎月グループホーム会議を開き、管理者・施設長は職員と話し合う機会を設けている。ホーム長は常に職員と話し、要望や意見を聞くように心がけている。職員は日々のケアの中で気付いた事は管理者やホーム長に伝えるように努めている。出された意見や要望は運営に活かせるように検討がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の希望をなるべく取り入れた勤務体制としている。又、毎年各職員での目標を設定し年度末に向けて評価する事で本人の努力や実績を把握する機会を設けている。又、それが給与の水準にも繋がっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の目標を各職員に決めてもらい目標を達成する為の働きかけや、外部の研修にも年1回以上受ける機会を設け技術意欲の向上を目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月隣接する、特養の施設と一緒に研修を行い、サービスの質を向上させる取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	意思を伝えられるご利用者には、不安や要望などは尋ね安心して頂けるように努力している。又、家具の配置を在宅での暮らしに近くしたり、なじみの家具や寝具を持ってきて頂いている。家族の写真をお部屋に飾るなど個々に応じた環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所がが決まった時点でご家族からの傾聴を十分に行い生活歴情報シートに記入し情報の共有と関係作りにも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設を利用される前に、本人・ご家族より情報を頂きそのアセスメントを基に今必要な支援を考え計画書を作成している。しかし、この施設外のサービス利用も含めた対応はできていない。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者にできる洗濯物たたみや洗濯物干し、おしぼりをたたんだり配ったり、食器の片付けのお手伝いなど生活の中でできるお手伝いはしていただくようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、家族交流会や月に1回の活動を通じて、ご利用者を支える一員として職員と協働した関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時々面会に来られる程度で、馴染みの方に会う支援や馴染みの場所の関係が途切れないような支援はできていない。	馴染みの人との文通を支援したり、友人の訪問時には茶菓子の接待をするなど職員は入居者の人間関係を大切に支援を心がけている。馴染みの店や以前通いなれた店の利用など、入居者からの希望があればできる限り対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	定期的に行事を行い、ご利用者同士がかかわりあえるような支援と日常的にも積極的に声かけを行い孤立しないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院へ入院された為に退所されたが、その後も病院への連絡やご家族の希望があった為に隣接する施設へショートステイを利用できるようにフォローや相談にのった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人様やご家族に、今後どのように生活していきたいかの希望を聞きケアプランを作っている。本人の意志を聞く事が難しい時には、ご家族の面会時に相談をして本人本位の暮らしになるよう努めている。	職員は入居者と会話する事を心がけており、普段の様子や言葉・表情・笑顔などから入居者の思いや意向を汲み取るように努めている。希望や意向を表すことが困難な入居者には、家族から情報を得るように努めている。知り得た情報は申し送りノートに記載し、職員間で共有してケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅での暮らしの継続ができる様事前に生活環境や趣味を把握しご家族に情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護計画の日課表に一日の過ごしかたを記入している。心身の状態や有する能力については、ケアアセスメントに記入し半年に1度見直しを行い現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員やご家族に意見を聞き、ご本人に必要なケアを話し合い現状に合った介護計画を作成している。	入居者や家族からの要望を聞き、具体的な介護計画が立てられている。3ヶ月毎にモニタリングが行われ、主治医の意見や家族の意見・要望を取り入れて現状に即した介護計画が作成されている。職員は日々のケアの中で入居者の状態を把握するように心がけ、介護計画に活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の状態は、ケース記録に残し職員間で閲覧できるようにしている。又、毎日ケアプラン通り実行できたかも確認するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が遠方におられる方で必要な物品が揃わない時には、職員との方が近くのスーパーに買い物に行っている。又、医療負担が3割の方には負担軽減の為に提携医の受診介助も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出の際は近くの公共の施設である、エネルギーパークや温泉施設を利用している。食材は、地元から購入している、以前から食べる習慣があった近所のパンが「食べたい」との事で週1回の朝食はパンにして暮らしの中に楽しみを持って頂けるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域の医院に週1回往診に来て頂いているが、本人・ご家族の希望により他病院を選択される場合は、ご家族に協力して頂き受診してもらっている。場合によっては、受診もしている。	入居者や家族の意向を大切に、入居前からのかかりつけ医の継続受診を支援している。通院は家族の送迎を基本としているが緊急時などは職員で対応している。家族送迎時や職員送迎時、往診時等どちらも受診結果は適切に説明し報告がなされている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師はいない為に、相談したい場合や異常が見られた場合は、すぐにかかりつけ医の看護師に連絡している。又、往診時にも相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に病院看護師へ情報交換や伝達を行っている。又、お見舞いに行き治療の進み具合や生活の状況、退院の見込みなどをご家族や看護師と情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化終末期に向けた方針は今後決めて行く予定にしており、経験はまだありません。	契約時に本人及び家族に事業所対応についての説明が行われ、同意を得ている。入居者の状態に合わせてその都度家族と話し合いを持つ体制ができており、家族と事業所は方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応の研修は行い、緊急時の対応のマニュアルも作成し職員に配布しているが、実践不足であり的確に動いているかはわからない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成しそれに基づいて防災、避難訓練を実施している。	防災委員会があり、防災管理マニュアルに沿った防災体制ができています。隣接事業所と合同で年2回の消防避難訓練実施の他、年1回はホームが火災元と想定した避難訓練も行われている。訓練には地元消防団も参加し、協力体制ができています。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の人格やプライドを傷つけないような声かけや対応をしており研修も行なっている。	入居者を人生の先輩として敬い、言葉づかいや態度に気をつけ、誇りやプライバシーを損ねることの無い様配慮している。個人が特定できる写真や氏名の取り扱いは特に注意し、外部に出す場合は、その都度家族等に確認をとるなど慎重に取り扱われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かを行う時は直接尋ねるようにし、自己決定ができるように働きかけている。また、本人がしたい事や希望を尋ねるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の体調や意見に合わせてケアするようにしている。入浴では、拒否が強い際には時間をずらしたり次の日にするなど希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1度の出張理容と本人・ご家族の希望があれば髪のカラーリングも職員が行なうようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	前は野菜を切って頂く事もあったが、肩が痛いとのことでされなくなった。献立は、時々はご利用者が食べたいものを尋ねて取り入れたりしている。	食事の下ごしらえやおやつ作り、おしぼりたみ、配膳・下膳など入居者ができる事は職員が見守りながら支援している。行事食や隣接事業所合同のバイキング、外食など食事が楽しみになる様なメニュー作りを工夫している。職員は入居者と一緒に会話を楽しみながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご飯の量などは、希望がある際にはそれに基づいて提供している。しかし、一人ひとりの状態や力に応じた支援までは行なえていない。アレルギーなどの禁忌は尋ね代替食は提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアはほとんどのご利用者が実施しているが、ご自分でされ開くと拒否されるご利用者に対しては、歯科医に相談し、夕食後最低1回は職員が関わり実施している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	パット内で排尿がある方にもトイレに座っていただく習慣をつけることで尿意・便意の維持や回復に努めている。又、排泄表を個々に作り排泄パターンの把握と便の形状をシールで色分けし排便状況を分かりやすく把握できる工夫を行なっている。	声掛け時間や誘導時間を把握し、入居者一人ひとりに合わせた排泄の自立支援を心がけている。排泄チェック表を活用してトイレで排泄できるように支援しながらパットやリハビリパンツなど本人の必要に合わせて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分は1日に800mlは摂って頂く様に促し、隣接の施設で行なわれている、運動プログラムにも1時間半参加しており(1週間に1回)身体を動かして頂く様に促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	職員の都合ではないが、曜日は一応決めている。しかし、状況によって曜日は変わることもありゆっくり入って頂く為に職員一人対一で1日3人だけにしている。	入浴は3日に1回を基本としているが本人の希望があればできる限り支援するように心がけている。入浴剤を使用したり、楽しい会話で長時間ゆっくり入浴される入居者も多い。入浴を嫌がられる入居者には無理強いせず、時間や対応を変えたり声掛け等をしながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間あまり眠られず日中眠られている場合は時間を見て少しだけ居室での臥床を促したり、夜間は尋ねてみてご本人が「休む」と言われた時や眠そうにしている時に臥床を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケース記録に最新版の薬効を挟めており職員や家族がいつでも閲覧できるようにしている。また、薬が変更になった時は状況を見て医師や看護師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の訴えでできる支援はなるべく行なうようにしている。(買い物・散髪・カラーリング)又、洗濯物たたみなど声かけ行い生活の中に役割を持っていただくように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所へ買い物に行く時は、ご利用者の気分転換になるよう一緒に行ったり、ご利用者とみんなで行けたり、ご家族の協力を得て全員でバスハイクに行ったり、と外出の支援はしている。	敷地は広大で、入居者は自由に隣接事業所まで散歩したり戸外に出て散策している。職員は、見守りながら支援している。行事参加や買物、花見、ドライブなどの外出支援も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはトラブルにならないように、金銭面はご家族に任せていますが、しっかりされたご利用者の方へはお金を所持して頂き、散髪代や買い物等煮に使われている。通信販売を頼まれている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者より、希望があれば電話をかけ話やすい環境づくりを行い対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、ソファを置き帰宅願望がある方に座って頂き視線を落とすことで海や山などが眺めることができる環境にしている。床も木を使い温もりがあり足音が聞こえづらい。電気も3種類の明るさを設け個人の生活や時間帯に応じ使い分けている。リビングでは台所が見え家庭的な環境づくりに務めている。	ホーム内は木目調に色彩が統一され、明るく落ち着いた雰囲気となっている。除菌効果のあるオゾン発生器を活用し、嫌な臭いが無い様に努めている。自動加湿器が設置され適度な湿度に保たれている。居間の一角の和室にはコタツが置かれ、入居者や家族との団欒に活用されている。花や行事の飾り物で季節感を出すように努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや玄関にはソファを設置し、和室にはこたつも設置しご家族や利用者同士が話をしたり独りになれる居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家から使い慣れた家具を持って来て頂いたりご家族用の布団も用意しており居心地よく過ごせる工夫をしている。居室によっては畳の部屋を用意し床に布団で対応している。	居室はトイレ・洗面台付きで広く、自宅で使い慣れた馴染みの品の持込を支援している。テレビやタンス、家で使用していた布団、三味線を持参している入居者もいる。居室には絵や写真、カレンダー、手芸品、ぬいぐるみなどが飾られ、その人らしい居室づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自由に建物内を動いてもらいたいので、居室内は転倒の危険がある方は吸収マットを敷き転倒されても怪我をしにくい工夫をしている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない